

学校だより
第55号

報徳

R4.3.18

校長 松下 公博

池田小のシンボルを大切にしよう

「報徳の碑」「希望の道」看板設置

3月も3週目が終わり、残すところ卒業式と修了式になりました。コロナ感染もまだ落ち着かない状況ですが、子ども達は今の学年の学習を全て終え、無事に春休みを迎えられそうです。

PTA広報紙でもお伝えしましたが、この度、報徳園に看板を設置しました。報徳の碑やアプローチについて説明してあります。是

非ご覧ください。3年前池田小に赴任してすぐのこと池田小を卒業した方と話をすることがありました。今は校区にお住いではありませんが、報徳園や黒田店のことを懐かしく話されました。報徳園についてその人曰く「なんだか薄暗いところに古びた記念碑が立っていて怖い森みたいだった。」そうです。子ども

い場所ってありましたよね。その人にとってはとても印象に残る場所だったようです。地域にも報徳の碑を大切に思っている方がたくさんいらっしゃいます。人によって印象や思い出は様々だと思いますが、池田小で学んだ人にとって報徳園や報徳の碑は思い出の中で学校のシンボルとなっているようです。そのような場所があるこ

とはとても素敵だと思います。池田小の卒業生は「報徳園」の思い出を共有して、池田小の卒業生として誇りを持って生きていらつしやいます。報徳の碑の上にあつた玉は熊本地震で落下して以来、ずっと裏側においてありました。地域の方々からなんとか修復できないかと相談されました。軽い樹脂でレプリカを作って載せるなど安全に修復する方法を考えましたが、なかなかいいアイデアが浮かびませんでした。そんな中、昨年3月に玉を処分するという連絡がきました。私は地域の方々と相談をし、修復してもらえるようお願いをしました。業者とも相談を重ね、支柱で支えを入れることで修復でき

ることになりました。再び玉が載った本来の姿は大変立派でした。地域のみなさんも喜ばれました。私は、蘇った記念碑を在校生にもっと身近に感じてほしいと思いました。そこで、6年生に相談をし、レンガでアプローチを作ることになりました。真夏の熱い中でしたが、深く穴を掘り、砂利を敷き詰める作業をみんなで頑張りました。最後にレンガタイプを並べました。施工のお仕事をされている保護者の方にもお手伝いいただき、立派にできあがりしました。隣地が駐車場になったこともあり、報徳園が明るく生まれ変わりました。企画委員会が主催して、アプローチの名前を募りました。子ども達は「イケちゃん

ロード」「いのちの道」など素敵なお名前をたくさん考えてくれました。その中から「希望の道」に決まりました。被災した学校のシンボルの復活。子ども達の手で作った「希望の道」なんともドラマチックではありませんか。この物語を後に語り継ぎ、学校のシンボルとして大切にしたいと願っています。報徳園を作り直しました。報徳園でミニコンサートなどをしたいと思いましたが、コロナに阻まれてしまいました。いつの日か実現してほしいと思います。これは私も池田小のOBとして、報徳園を大切に思い出の一つにしていこうと思います。